

船員世界とインターネット

— 船員自身が切り開く海洋国日本 —

全日本内航船員の会 松見 準

実習生のころ、まだ携帯電話はなかった

それでも、「カノジョ」や「気になるコ」と連絡をとる努力は誰も惜しまなかったし、公衆電話の使用済みプリペイドカードはすぐに束になった。

長く「離社会性」「離家庭性」の問題が投げかけられてきた船員世界にとって、通信技術の発展による恩恵は最も求められてきた「願い」の一つなのだ。

しかし、乗船勤務を始めてからも、現在のような時代が来ることを考えることはできず、いつの間にか「船員という職業はこういうものなのだ」と自分たちでも簡単にガマンし納得もしていた。

船を降りて15年、あれから通信技術は劇的な進化を遂げ、中でもインターネットという概念の登場は、人類の文化、生活にまで大きな変化をもたらしている。情報化社会の始まりは、「価値観の混在」や「過度なグローバル化」によって、社会にさまざまな形で混乱や問題を生じたのも事実だが、今やインターネット技術は、社会、経済、市民生活にとって不可欠であり、かつ有意義に活用されている。そして、今もその便利な活用法がさらに研究され、進歩を続けている。

近年では、公的なサービスを受ける場合の申請にも、子供の進学や就職の情報を得る場合にも、インターネットを介するケースが増えている。こうした中での情報格差は、機会の格差、ひいては貧富の格差にも直接的な関連がある。船員や船員家族の社会的地位向上のためにも、もうガマンをしている場合ではないのだ。

インターネットの進歩はユーザーにかかっている

インターネットの利用状況の発展は、新たな段階（web2.0）に入ったと言われている。これまでと大きく異なる点は、ユーザーが双方向で情報をやり取りし、これを蓄積、発展させていくウェブの仕組みだ。これによって、今までの情報発信者の掲示板的ウェブサイトとは違い、多くのユーザーが参加することで情報を補強しあい、社会性のある一般的な価値観に即したウェブの発展を求めていくことができる。常日ごろ、便利に活用したいサービスは、利用するすべてのユーザーによって随時構築され、さらに利用されることになるのだ。

ケータイ端末の登場

多くのユーザーの利用によって発展する仕組みを得たウェブは、パソコン端末での利用の枠を越え、誰もが肌身離さず携帯しているケータイ端末での利用にまで広がってきた。日常生活で利用する分野のウェブサイトの中には、完全にケータイ向けに特化したサイトもある。

ここまで来るとパソコンを持ち込んで乗船していない船員生活でも、インターネットはグッと近い存在になってくる。問題は利用したいサイトがあるかどうかという、かなり現実的な話へ進んでくる。船員にとって便利なサイトがないのなら、皆で求めていけばいいのだ。

船員が使わなきゃ、船員向けネットサービスは育たない

「どうせ航海中は電波圏外で使えないではないか！」という人も、電話基地局の指向性アンテナを海上側に向けてくれるよう求めるべきである。船員がこれを要望しなくて、一体誰が要望するというのか！また、船員向けのサイトへの期待を膨らませ、その議論を育てるのは、船員自身でなければ全く意味がないのだ。

初めは魅力的なサイトが見つからないかも知れないが、そんな時も、複数の船員同士が「こんなサイトがあれば便利だな」「あんなサイトならあるよ」と言い合っていくことが求められている。そんな仲間が見つかるようなサイトを紹介したい。

ネットワークサイトの紹介

現在、急激な成長を続けているのが、ソーシャル・ネットワーキング・サイト(SNS)だ。

ソーシャル・ネットワーキング・サイト(SNS)は、ネット上に社会のようなコミュニケーションの場を構築しているサービスで、この中に「同じ趣味を持った人の集まり」や「同じ職業の人の集まり」などのコミュニティがあり、登録者はそこで情報交換や質問を交わすことなどで活用している。コミュニティで知り合った人が日記を書いているれば、その人がどんな人なのかを深く知ることもできるし、その逆もある。

個人宛にメッセージを送ることもできるので、バーチャルと言われてきたネットの世界とは違い、直接会いにいった何かを教わったり、何かを受け渡したりといったような使い方もある。日常生活のツールと言ってもいい程の発展を遂げているのだ。

また、ほとんどの人がニックネームで登録しているので、匿名性をもたせられるのも特徴だ。

***紹介するURLが長いので、QRコードをご利用ください。**

日本最大の会員数を誇るSNS mixi (ミクシィ) <http://mixi.jp/>

すでに会員になっている方からの招待状がないと会員になれない。

(近々、招待状なしでも参加できる登録制への移行のウワサがある)



mixi 内の船員コミュニティ

「船員、元船員の連絡帳」

http://m.mixi.jp/view_community.pl?id=50437&

数あるSNSの中でも最大の船員コミュニティ。

コミュニティの参加登録に承認式をとっているため、簡単な自己紹介をして承認してもらおう。本当に「船員」だけが集まっているコミュニティの実現を目指している。



「清水海員学校」

http://m.mixi.jp/view_community.pl?id=189314&

清水の海員学校、海上技術短期大学の出身者だけでなく、学校に興味のあるすべての人が集まっているコミュニティ。



日本第2番手のSNS GREE (グリーン) <http://gree.jp/>

ケータイから気軽に登録して参加できるSNS。



GREE 内の船員コミュニティ

「内航船員 海上生活情報交流ボード」

http://mcom.gree.jp/community/view/1047667&gree_mobile=65af1da3fb67a2005a1ac6a609667b6f&ref=msearch

まだできたばかりの内航船員向けコミュニティ。

参加には承認式をとっているが、GREEの特徴を生かし気軽に承認していく方針。



船員を取り巻くインターネットへの理解の実情

海運業に足を踏み入れる決意を持って進学し、夢の実現のために日々を励んでいる学生たち。卒業後、全国の船会社にそれぞれ就職し、海上勤務の厳しさを乗り切るために挑戦し続ける若い船員たち。航海のサイクルにも少しずつ慣れ、夢に見た船員世界を再び振り返りはじめた船員たち。皆に伝えたい、「船員世界」を作るのは若い船員自身なのだ。

今、内航船に勤務すれば、慌ただしい少数定員の船内で、海技の継承も難しくなっている。これからはネット環境がある。船員のネットワークは、必ず孤独な若い船員の助けにもなるだろう。同じような境遇にある仲間と、ともに励み成長し続けることができるはずだ。

しかし、海運業・関係者のインターネットへの理解の実情は、船員にとってまだまだキビシイことを知っておかなければならない。「インターネット環境なんて船員個人には必要ない」と考えている船会社もまだまだ存在するし、海員組合の職員の中にも、携帯電話を船内に持ち込むことにすら疑問を唱えている人もいる。

私たち船員にとって、船内は職場であるだけでなく、生活の場であることを忘れてはならない。そして、常に私たち船員の後ろには、毎日テレビの天気図を見ながら心配している家族や大切な人、お父さんの帰りを心待ちにしている子供の気持ちがあることを忘れてはならない。切に船員との通信を求めているのは、本当はこういう人たちでもある。

6年前に「インターネットが内航船員環境に及ぼす効果について」（全船協技報第39号 2003-7 / 全日本船舶職員協会発行）という論文を書かせてもらった。しかしあれから、これだけのインターネット社会の進歩と変化を経ても、海事関係者のインターネットに対する意識に変化があったようには感じられない。

問題意識を持たず、何もしなくても、きっと「時代」が変化させてくれるはずだという考え方は「甘い」のかも知れない。

今では船員自身が制作したウェブサイトもだいぶ増えた。かつては船員がどんな生活をしているのか、どんな景色を見ているのかを、一般の人が知ることは難しかった。

船員という職業がこれからもっと認知され、海運業自体が、一般の方々や社会から応援してもらえるような親しみのある産業へと成長、発展していくことを望む。「海洋国」にふさわしい自身の未来を考える時がきている。そして今、船員は自らそのチカラを持とうとしているのだ。（了）